

上州の鋳物師

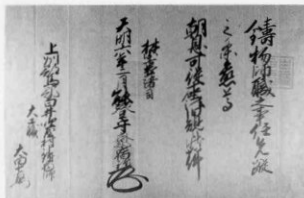
この絵図と文書は、群馬郡吹屋村（現子持村白井）で鋳物師をしていた阿久澤家に伝わるものです。阿久澤家は江戸時代中期小澤姓を称し、寺社の梵鐘・鋸口のほか釜鍋銅鉄など日用品も製造していました。代々七左衛門の名を襲名しており「後鍋屋」の屋号、同村内の同業で同姓の作左衛門家は「前鍋屋」の屋号でした。吹屋村の地名も鋳物師（ふいご）の家（ふきや）にちなむとされており、白井周辺は金属加工に関係する地名が多くあります。天明元年（1781）この小澤家2軒と吾妻郡原町・甘楽郡下仁田村・群馬郡下新田村の鋳物師5軒で仲間を結成し、上野国内での営業と販売権を独占して統制するようになったとされています。

上の文書は鋳物師職許状です。江戸時代、全国の鋳物師を統率していた朝廷蔵人所小舎人の公家真継家から鋳物師職許状が与えられています。真継家の配下に属するため一時、野天（のあま）の鋳物師太田家の分家となり、太田姓を称したことがありました。料紙は、摺紙という灰色の紙が用いられています。真継家の配下にはいると由緒や技術が保証され、

営業も有利に進めることが出来ました。

絵図は、家相を見るために作成されたもので、小澤家の建物の様子が描かれています（縦66cm×横50cm）。釜場、細工所、細工屋などの名称が見とれます。

（参考資料）『群馬県史』通史編5 462～468頁
『子持村誌』上巻 940～943頁



（文書館企画展「鉄を活かす上州の職人」パンフレットより）

